地域からはじめよう!

環境出前講座を開催しませんか？

「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望がございましたら、各地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい環境素材に子どもたちも大喜び！みなさんも環境講座を開いてみませんか？

無料

主婦向け　家庭でできる省エネ講座

エアコンやテレビ、冷蔵庫など、講座を受けてすぐに実践できる省エネ講座。家計の節約にもなりますよ。

▲イベントに出展の様子

子ども向け　環境ゲームでエコまなぼ

ちょっぴり難しい省エネも、ゲームを通して楽しく学べます。
省エネは子どもたちから率先してする時代へ。

▲子ども向け講座

実践編　エコバッグづくり

新聞紙を再利用して、エコバッグを作る講座。
新聞紙がオシャレなエコバッグに変身しま～す！

その他にも、様々なテーマに対応した講座が実施可能。

・・出前講座開催までの流れ・・・・・・・・・・・・・

1. **出前講座開催申し込み**
   センターのホームページ (http://nccca.jp) より申し込み用紙がダウンロードできます。実施予定日の1か月前までに申込書をセンターへ提出してください。
2. **センターから各推進員へ連絡・調整**
   ・講師料／無料 (講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)
   ・学習会の時間／原則午前 10 時～午後 5 時までの間 90 分以内
   ・曜日、時間等はご相談ください。なお、諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、予めご了承ください。
3. **出前講座受付確定・実施**
   出前講座申し込み者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。

開催条件

※開催場所は県内に限ります！
※5人以上から開催可能です！

nccca 長崎県地球温暖化防止活動推進センター

お問い合わせ

住所：長崎市元船町17-1　公益財団法人ながさき地域政策研究所 内
TEL:095-820-4868　FAX:020-4623-5633　http://nccca.jp

エコながが通信

発行月 / 平成 26 年 3 月　編集 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター　発行 / 長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町 2-13　TEL / 095-895-2512　FAX / 095-895-2566

エコながが通信

第23号

2014.03

温暖化防止かわら版
http://nccca.jp

長崎県地球温暖化防止活動推進センター 5年間の振り返り

長崎県地球温暖化防止活動推進員が行く！ 色々あります地域の活動。

大学発エコ

九州エコライフポイントに参加した NPOの活動

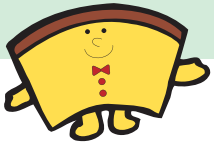
エコながつ通信

温暖化防止かわら版

第23号
2014.3

発行月／平成26年3月
編　集／長崎県地球温暖化防止活動推進センター
発　行／長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13
TEL／095-895-2512
FAX／095-895-2566

http://nccca.jp



CONTENTS
目　次

01. 温暖化防止センター５年間の振り返り
長崎県地球温暖化防止活動推進センター
センター長　菊森淳文
長崎県環境部未来環境推進課
課長　前田茂人

02. 温暖化防止センター５年間の振り返り
推進員は、何するの？

04. 推進員地域の活動 … 環境保全

05. 推進員地域の活動 … 循環型再資源化

06. 推進員地域の活動 … 推進員連携

07. 推進員地域の活動 … マイ箸・マイバック

08. 推進員地域の活動 … 環境学習

09. NPOの活動

10. NPOの活動

11. 大学発エコ

12. エコドライブ特集

13. 県からのお知らせ … 推進員募集

「エコながつ通信」とは…

「エコながつ通信」は「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」が制作している環境冊子です。長崎県未来環境推進課より発行され、県民の環境への意識を啓発するための内容となっています。環境の最新情報や環境コラム、また県内企業や個人、団体の環境の取り組みなども紹介し、楽しく読める盛りだくさんの内容となっています。発行：4回／年
配布先：各行政機関等（当センターへお尋ねください）

長崎県地球温暖化防止活動推進センターとは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県ごとに設置されており、当センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」、「活動支援」、「調査」などを行っており、その一環として、「エコながつ通信」で情報を発信しています。
※本誌内では、〈センター〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進員とは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進員」とは、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源に取り組むとともに、地域住民の方々へ温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めて下さる方々です。県から委嘱を受け2年間の任期で推進活動を実施します。
※本誌内では、〈推進員〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進センター

５年間の振り返り

長崎県地球温暖化防止活動推進センター
センター長　菊森淳文

センター5年間の振り返り

平成21年から5年間、県から「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」指定を受け、県下90名の推進員のみなさんと共に温暖化防止の普及啓発活動を行ってまいりました。指定当初と震災後の環境問題とは大きく内容も異なり、それに伴いセンターが実施する普及啓発活動も単なる啓発ではなく、真にCO_2排出削減や持続可能社会をつくるための新エネルギー導入を伴う啓発にその内容をシフトしてきました。そうした中で行ってきた、ラジオ番組やWEB、またこのエコながつ通信等の広報活動はアクセス数、読者が増え、ながさき県エコフェスタ、もったいない大会などの環境イベントも参加団体、当日の来場者も格段に増えてまいりました。
また、参加型の環境ポスター展・節電コンテストやセミナー等も学校や地域が連携して参加をしていただくなど、学校や地域で環境への関心の高まりを、ひしひしと感じております。これは、各方面から学習会の依頼が増え、推進員が各地に伺う機会が増えたことからも感じることでございます。
現場ではたくさんの方々と情報交換をさせて頂き、この中で培った経験や情報は何事にも代えがたく、当センターの貴重な財産となっております。今後も各地区の推進員、大学、行政、各団体、企業の皆様と連携を図り、地域に根差した普及啓発活動に努めたいと存じます。

長崎県環境部未来環境推進課
課長　前田茂人

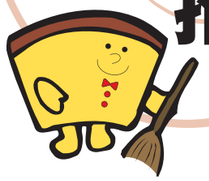
県民総ぐるみの地球温暖化防止活動の推進に向けて

長崎県では、平成13年度から地球温暖化防止活動推進員制度を開始し、各地域の推進員の方々に創意工夫に満ちた活動を展開していただいています。当初は10人だったメンバーも、地球温暖化問題の認識の高まりとともに拡大し、現在では90人となっています。
　当初は推進員の方々が個人で活動されていたとのことですが、最近は推進員の方々がグループとして活動されるケースも増えてきています。同じ志を持った仲間とともに活動していくことは、より良い活動、より長い活動に取り組くむために非常に重要です。

　長崎県の現状は決して楽観視できるものではありません。身近な環境活動に取り組んでいる人の割合は、平成22年度の70%から、平成25年度には63%に低下しており、特に若年層の低下が目立っています。
県としては、県民の皆様と現状に対する危機意識を共有し、県民総ぐるみの地球温暖化防止活動を展開していきたいと考えています。読者の皆様には、節電やエコドライブなど簡単なものからで良いので、身近な環境活動に取り組んでいただければと思います。

地球温暖化防止活動推進センターと推進員

５年間の振り返り
推進員は、何するの？



1年目

さぁ、推進員になりました。
何をするのでしょう？

学習会や、
体験会に積極的に
参加しましょう。

近くで開催される
エコイベントに
参加したり、自分が出展したり。

最初はイベントに出かけ
雰囲気をつかみましょう。
慣れて来たら
自分のできることから
お手伝いで参加しましょう。

地域の皆さんと交流して
活動状況を把握しましょう。
また、自分の得意分野や、
出来ること、やってきたこと、
ネットワークなどを
みなさんに知って
もらいましょう。
（かつて池島炭鉱見学などを行いました。）

子どもたちが描いた、
環境ポスター展を
見に行きました。
（お近くの市町開催の行事に
参加しましょう。）

センター主催の
推進員の研修会に参加して、
地球温暖化の最新情報を取得しましょう。
曖昧な情報は、誤解や誤情報のもとになるので、
気を付けましょう。
（年に１度推進員の全体研修会と、ご自身の地域で開催される地区研修会の２つがあります。必ずご参加ください。参加無料。）

3年目

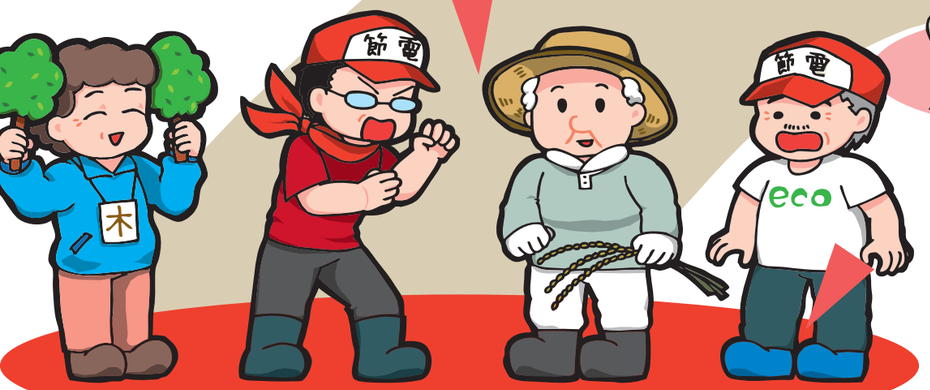
環境行動に参加したり、
環境行動への参加を周りの人にお願いしたり。

勉強して、沢山の情報を得たら
身近な人に伝えましょう。
また、できる環境行動から
実践してみましょう。
また、一緒に身近な人を誘ってみましょう。
（節電行動やエコドライブの参加など、環境行動やイベントの参加依頼があります。）

センターラジオ番組
「えこなが研究所」に
ラジオ出演していただいたり。

（素晴らしい活動を
継続して実施している方は、
メディアへ登場頂いたり
エコなが通信で取材
いたします。）

5年目



ベテラン推進員さんに
なってくると、
学習会をご自身で開催
したり、他の団体から
学習会の講師として、
依頼があります。

活動が盛んになると自主的に各地区で勉強会を開催したり推進員さんたちが
劇団結成！なんてことも‥‥。イベントなどに引っ張りだこです！！

環境保全

県央地区推進員 中島ふささん

現在3期目の推進員を努める県央地区の中島ふささん。退職をきっかけに、本格的にボランティア活動を行うようになり、生活学校でポカシづくりや生ゴミリサイクル、マイバッグ運動など、生活に関わりのある活動に取り組み始めてから環境問題に関心を持つようになったそうです。もともと地域活動に高い関心をもっておられた中島さんですが、更に勉強してみると、環境問題は奥が深く、様々な観点から多くの分野に関わりがあることが分かり、自分だけでは広がりがなくどうしようもないと、推進員の仲間に入って活動を始めたとのこと。また、前職とのつながりから、食育祭の開催など、食との関わりも多い中島さん。「食と環境は、つながりが深いんです。」と話されます。「地場産や季節のものを食べること、生ゴミもなるべく出さないこと。女性は、もっと生活の中の身近な環境問題に関心を持ち、一人ひとりがエコ活動に努めるべきだと思います。」とも話されました。中島さんのように皆さんも、まずは自分たちの身近に取り組めることから環境活動にチャレンジしてみてはいかがでしょうか！！

環境活動の輪を広めたいです。

県南地区推進員 宮崎文子さん

「普段の生活の中で、自分が楽しく続けられる環境活動をしています」と話す、県南地区の環境推進員の宮崎文子さん。イベント等の参加だけではなく、以前から「1人でできるエコ活動を」という事で、生ごみ堆肥化の普及活動や行政に対しての野焼きのルール化のお願い、山林内への粗大ごみ放置・放棄のパトロール等を続けられています。中でも、粗大ごみ放置・放棄のパトロールは、お出かけの際に、山道を走り、粗大ごみを捨てようとしている不審な車を見かけたら声掛け。にこやかに話しかけて、次回からやめていただきたいとお願いしているとの事。

この様な普段からの活動は、自分にとって無理のない範囲で行っています。環境活動は、今すぐ理解してもらえなくても、先々で解っていただけたらと思っているそうです。今後は、周りの方にも温暖化防止や環境活動のことなどを伝えていきたい。気長に活動したいと話します。
クリーンな長崎県になってくれればと日々願いながら、これからも活動していくと話されました。

クリーンな長崎県になってほしい。

循環型再資源化

対馬地区推進員 佐伯卓也さん

もともと清掃などの環境美化活動を従業員や地区の方たちと月に1回の割合で行っていた佐伯さん。またご自身のスーパーの取組としても廃油・トレー・牛乳パックの回収などを行ってきました。その際、長崎県温暖化防止活動推進員の方々と接点を持ち、長崎県が「温暖化防止活動推進」を行っていることを知ったと言います。佐伯さんはそこで地域を支える住民の一人として何かお手伝いが出来ればと、推進員になり活動に参加するようになったそうです。仕事が多忙な中での活動は大変。佐伯さんは、「推進員になってもなかなかできることは限られていますが、従業員に働きかけることでも普及啓発になることを知り、まずは身近な人たちへ環境に関心を持ってもらうことから活動を行っています。」と話されます。地域で環境活動を行うに当たって、拠点があることは大変重要なことです。そんな中で佐伯さんは、ご自身の店舗を活かし、環境活動に熱心に取り組んでおられます。みなさんも地域で環境活動を行っているお店などがありましたら、ぜひ気軽に参加してみてください。

まずは身近な人に環境への関心をもってもらいたいです。

佐世保地区推進員 山西浩文さん

白南風小学校教諭の山西浩文さんは、毎日給食で出る食品残渣（ざんさ）を畑に埋め堆肥化し、校内で花などの植物を育ててきました。一昨年の夏は、その土を使用し、複数の植物でグリーンカーテンを作りました。直射日光が当たらず眩しくない、教室が暗くならずに涼しいという利点もありましたが、反面、枯れた跡の処理が大変だそうです。それでも夏場に児童の学習環境を整えることができ、良かったと話して下さいました。

この様な活動ができるのも校内で給食を作るという、自校式のため。残渣の回収の手間が省け、土作りが容易であること、また給食担当職員の協力を得られるので、継続しやすいことなど、実施環境に恵まれているからです。

今年の夏は、子どもたちがもっと涼しく過ごせるように、グリーンカーテンの設置教室を増やしたいそうです。日常生活でも、省エネ活動を、ご家族と一緒に続けている山西さん。今後の環境活動としては、無理なく継続できる体制作りや、仲間作りが課題だと話されました。

無理なく継続できる体制や仲間作りが課題です。

推進員連携

県北地区推進員 松田征男さん

佐々町に住む、県北推進員の松田さんは、退職後地域に恩返しが出来ればということでボランティア活動に参加し始めたそうです。自治会活動や地域の活動に参加する一方、推進員を3期務め、様々な会合に出席する際には必ず発言し、温暖化防止に努めるよう、地域のみなさんにお願いしているそうです。昔から好奇心旺盛な松田さんは、温暖化についてもわからないことに対してはすぐに質問。ペットボトルのラベルのはがしやすさなどには、生活者目線で特に注目。
分別方法などをメーカーに直接問い合わせ、最新情報を得ているそうです。

松田さんは、「県北地域はエリアが広く、推進員の居住地域も散らばっているのでなかなか推進員同士の交流は難しいところです。しかしながら、今日のように時々勉強会に集まり皆さんと一緒に知恵と経験を持ち寄って、今後は地域の温暖化防止推進活動を盛んにしていきたいですね」と笑顔で応えて頂きました。

地域の温暖化防止推進活動を盛んにしていきたいです。

長崎地区推進員 松尾維典さん

松尾維典さんは今年度、地区代表推進員を務め、「今年度は、脚本から出演まで推進員が行う“エコ寸劇”を学校やイベントで計4回公演したことが大きな成果。」と語っています。一方、地区活動に参加していない推進員への働きかけも行いました。不参加の理由のひとつに、介護などの理由があるとわかったため、平日活動の際に声を掛けたり、活動報告は継続して発信し続けるなど参加しやすくなるような対策を取り、課題解決に取り組んできました。
リーダーを務めたこの1年を振り返り「7年前推進員になった当時は、各々バラバラでしたが、定例会議を始めたことで推進員が目的を一つにして、市民に伝えることができるようになった。ひとえにセンターのおかげ。」と謙虚に振り返っています。「一番の思い出は1回目のエコ寸劇。久しぶりに、いい緊張感を味わった。」観客の反応も良く、反省会では次の構想で盛り上がり、チームの結束がより強くなった瞬間でした。最後に「私は今年度で引退しますが、今、行っている活動をみなさんでぜひ継続していってほしい。」と、想いを語られました。

目的を一つにして、活動することができました。

箸マイバッグ

五島地区推進員 嶋里豊子さん

お仕事が休みの時は、エコのために、ご自身の趣味のトライアスロンのトレーニングも兼ねて「移動手段は自力（ランニングか自転車）です!」と五島地区担当の嶋里豊子さん。今年度は、10月に行われたイベント「もったいない大会」を成功させるために、一生懸命頑張ったそうです。イベント等でエコ活動を普及させるためには、当たり前の事ですが、準備などをしっかり進め、参加して下さる方に喜んでもらいたい。また子どもの年代層にしっかりと環境教育を進め、子供たちにきちんと伝えることが大事だと話しています。ご自身の仕事柄、食品業者との関わりがあるため、その事業者に対してエコドライブの推進やマイ箸運動などの、環境活動を実践してもらうような取組をしたいそうです。
事業者の方々に、環境活動のお願いの呼びかけをするだけではなく、実践してもらうために行動をおこし、浸透させるための取組をどのようにしたら良いか、これが嶋里さんのこれからの課題だそうです。

環境教育を進め、子供たちにきちんと伝える事が大事。

上五島地区推進員 前田光昭さん

▲婦人団体の方々（上五島地区生活学校交流研修大会）

上五島地区のリーダーを務める前田光昭さんは、新上五島町役場の職員でもあります。環境行政に携わって18年。今では地域のことは知りつくし、ネットワークも豊富な頼もしい上五島地区のリーダー推進員さんです。そんな前田さんが力を入れているのは、地元の婦人団体と連携して取り組んでいるマイバック運動。新上五島町は、長崎県下で初の「レジ袋有料化」を実施した結果、マイバックの持参率は脅威の85%を維持しているそうです。
その他、環境教育にも力を入れていて学校や婦人団体を対象とした出前講座にも出かけています。実施の際には地域に合うよう独自で教材を改良したり、また、イベント開催時にはなるべく多くの人に参加してもらえるようあちこちから情報を収集し協力体制を作っておられます。
前田さんは、「今後も町の職員として、また推進員としても地域のみなさんと協力し、エコ活動に取り組んでいければいいですね。」と明るい笑顔で応えてくださいました。

地域の皆さんと笑顔でエコ活動に取り組みたいです。

長崎県地球温暖化防止活動

推進員地域の活動

環境学習

西彼地区推進員 伊豫田和代さん

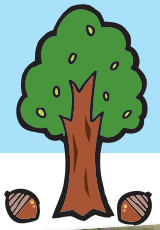
「子供や孫たちが生きていける地球環境を残したい。」と、温暖化防止活動の『出前講座』に取り組んでおられる伊豫田和代さん。
人前で自己紹介をする時に声が震えるほどのあがり症だったのを、長い時間をかけて、活動を続ける中で、克服されたそうです。
勉強のために、本や新聞、TVなどから情報を集めますが専門学的な表現では伝わりにくいので、教材を手作りしたり、日常会話のような言葉を使うように心がけていらっしゃるとのこと。「これからの抱負は?」と尋ねると、「地球を熱くしているのは私たち。だから、それを一人一人がしっかりと理解して、少しでも改善に向かって行動に移してもらえるように話していくつもりです」と熱く語られました。

子供たちに美しい地球環境を残したいです。

壱岐地区推進員 長岡信一さん

地域でも様々な活動を、環境においては、ただ活動するだけではなく、しっかりとした目標意識を持ちながら取り組んでいる壱岐地区推進員の長岡信一さん。
「4年前から、小学校において環境教育を行っています。本来のカリキュラムは5･6年生向けですが、今年度の2校のうち1校では、低学年にも行ってほしいというご要望があり、特別に実施しました。次世代において、温暖化防止活動やエコ活動の核になるような人材を育てなければいけない。その為の小学校での環境教育。」と話してくださいました。
これからも小学校で、子供たちの心に残る、そして解りやすい環境教育に取り組み、大人より子供の環境に対する意識を変えたい。その為に、年3回、2校の環境教育に出向いているのだそうです。壱岐市は、小学校が分校まで入れると20校（小学校18･分校2）あります。すべての小学校を回るまでは推進員を続け、活動をしたい。住んでいる地域に恩返しをしたいという気持ちで自分の役割を果たしたいそうです。

住んでいる地域に恩返しをしたいです。



九州エコライフポイント参加団体

NPOの活動

九州エコライフポイントとは・・・・
九州７県と九州内の企業や団体で、温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減を目指し、「九州エコライフポイント」制度が始まりました。様々な環境活動にポイントをつけ、参加者が道の駅や農産物直売所等で商品を購入したり、協賛店のサービスなどを受けることができる仕組みです。NPO団体はこの制度を利用して活動の参加者にポイント券を差し上げました。ポイントはコンビニやスーパー等で使えたり、九州各県の特産品などと交換できる金券となります。

どんぐりプロジェクト ―― 長崎市
NPOえことぴぃ長崎　吉田政和さん

今年度の10月「ながさきエコライフフェスタ」で、えことぴぃ長崎は『どんぐりプロジェクト』を実施しました。代表の吉田政和さんに伺ったところ『どんぐりプロジェクト』とは、全国の方々がどんぐりの里親になり、東北の被災地で拾った、どんぐりから苗木を育て、約1年以後の秋頃に被災地に返送。苗木を植えてもらい被災地に緑を取り戻すことを応援する活動です。
どんぐりの移植には、植樹する場所のどんぐりで育てた苗木を植えなければ、どんぐりのDNAが違うため生態系を壊してしまうのだそうです。そのため、全国の方々に東北のどんぐりの里親になってもらう必要があるのです。イベントでは、まず紙パックを利用、どんぐりを育てるための植木鉢作りを行いました。そして、どんぐりの里親になるために参加申込をして下さる方々を募集しました。参加のお礼として、ポイント券をお渡ししたそうです。今年度はイベントに出来る限り参加し、環境講演会やワークショップを行い、グリーンコンシューマーを増やす活動をしたいという事でした。

被災地に緑を取り戻す活動を行いました。

キャンドルナイトＩＮ金石城庭園 ―― 対馬市
NPO法人 対馬郷宿　鍵本妙子さん

半井桃水館（なからいとうすいかん）に事務所をもつ、NPO対馬郷宿が開催した「キャンドルナイトIN金石城庭園･灯りを消してスローな夜を」は、今年度のエコライフポイントの参加団体です。理事の鍵本妙子さんに伺いました。
7年前の発足当初から、キャンドルナイトは行っており、年に2回開催（夏至･冬至）することもあったそうです。今年度は、イベントにエコライフポイントを導入。入場者の方に300ポイント券をお渡ししたそうです。告知ポスターなどには、環境関連イベントであることを記載していましたが、気付かない方も多かったので、今回、ポイント券を渡すことで、環境に関連したイベントであるという意識づけができたと思います。発足当初は、50人ほどいたメンバーも現在では25名ほど。活動するメンバーが固定化してきたようなので、一度、初心に戻りたいと考えています。今後はメンバー全員と話す回数を増やしながら、自分たちが住んでいる地域の宝物を認識するには、今どうしたら良いかを考えているそうです。理想のライフスタイルは足元からコツコツと。

自分たちが住む地域の宝物を大切に。

九州エコライフポイント参加団体

NPOの活動

九州エコライフポイントとは‥‥

九州７県と九州内の企業や団体で、温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の削減を目指し、「九州エコライフポイント」制度が始まりました。様々な環境活動にポイントをつけ、参加者が道の駅や農産物直売所等で商品を購入したり、協賛店のサービスなどを受けることができる仕組みです。NPO団体はこの制度を利用して活動の参加者にポイント券を差し上げました。ポイントはコンビニやスーパー等で使えたり、九州各県の特産品などと交換できる金券となります。

クリーン作戦 ―― 壱岐市

八幡小学校 三根圭子 校長先生

全校を挙げて環境教育を実施する壱岐市立八幡小学校の三根圭子校長に、お話を伺いました。毎年秋に「八幡で働き八幡で学び八幡で遊ぶ」を合言葉にした、クリーン作戦を開催されています。この事業には、地元の東部漁協や海女組合の皆さん、PTA、地元ボランティアの方々も協力参加されています。当日は午前中に八幡の浜に漂着したゴミを拾い、そのご褒美として午後に1、2年生は、魚のつかみ取り（水槽の中のイカ、ヤズ、ヒラメなど）、3、4年生は、防波堤で漁師さんの手作りの竿で魚釣り。5、6年生は、はえ縄や刺し網の漁業体験後、アラカブの稚魚を放流しています。平成20年度から始まったこの作戦は、ここ数年で基盤ができ、特に今年度は充実したものになったそうです。今年度は、保護者をはじめ地域の方に、お礼の意味を込めてポイント券をお渡しし、大変喜ばれました。環境問題は、子供が変われば地域が変わる。環境教育への取組を一過性のものに終わらせるのではなく、今後も地域に根付いた活動にしながら、各学年の全ての教育に、環境というテーマを絡めていきたい。日常でも身近な環境教育を進めていきたいそうです。

各地域で様々な活動・取り組みが行われました！

大学発エコ

長崎市

長崎総合科学大学 工学部 田中義人 教授 環境・建築学部 蒲原新一 講師

▲左から、蒲原新一先生、石井郁さん、田中義人教授

長崎総合科学大学の田中義人先生には、今年度の推進員の研修講師をしていただきました。現在、先生は大学と地域住民、企業、行政が一体となった、環境に優しい未来の都市づくりを提唱されています。特に今年度は、東長崎エコタウン構想だけに留まらず、隣接する諫早市にもスマートシティ構想を提案拡大していくそうです。また、大学と地域住民との繋がりを進めてられている蒲原先生は、「行動や意識の変化による環境への効果は、すぐには認識できないものなので、住民に伝えたり、広げたりという事はとても難しい。自分たちが楽しいから活動していることを解ってもらうには、兎に角、顔を合わせてコミュニケーションを取ることが大事です。」と話されました。蒲原先生の地域活動にスタッフとして参加している学生の石井さんは、若い世代に環境へ関心を持ってもらうために人を誘い、話し合って地道に輪を広げているそうです。田中先生から「推進員の皆さんは、とても熱心ですね。環境活動を波及させていくために自分たちがご協力できる事があれば、このご縁を大切にして協力したい。皆さんの情熱で環境のネットワークを広く繋いでもらいたい。」とエールを頂きました。

環境のネットワークを広く繋いでほしい。

長崎市

長崎大学環境科学部 早瀬隆司 教授

ご出身は大阪。長崎は、大阪に比べると緩やかに時間が流れている気がするそうです。そうした長崎の環境に関する場で、先生は欠かせない重要な役割を担っておられます。そもそも環境問題に関心を持ったきっかけは、「子供の頃に感じた『不公平感』から」だとか。「僕が子どもの頃は、街がどんどん変わっていった時代でした。道路が舗装され、一見、街がきれいになったように感じましたが、それは僕ら子どもの遊び場をなくし、大気や川を汚すなど生活環境の悪化につながっていきました。そのような街の変化に理不尽な不公平感を覚えたものです。今考えてみると、それが私と環境問題とのつながりの原点だと思っています。」

現在、長崎市内を中心に「ノーマイカー運動」に取り組んでいる先生。「ノーマイカー運動は将来の長崎の街づくりの一環です。ひとりひとりの市民の意見が反映され、楽しく進められる運動にしたいですね。」と最後に締めくくられました。

環境活動を楽しく続けられる運動としていきたいです。

ながさき低炭素ライフコンソーシアム

エコドライブ

エコドライブについて【知って学んでまねてみる】をテーマとして、企業・団体を中心とした「ながさき低炭素ライフコンソーシアム事業」がスタートしました。
その参加事業と私たちにできるエコドライブを一部ご紹介します！！

コンソーシアムメンバー（敬称略・順不同）

公益社団法人 長崎県トラック協会 / 一般社団法人　長崎県タクシー協会 /生活協同組合　ララコープ
長崎大学　名誉教授　武政　剛弘 /長崎県環境部未来環境推進課 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター

参加企業

生活協同組合ララコープ

株式会社井石

有限会社海野清掃産業

ヤマト運輸株式会社

平木工業株式会社

ラッキー自動車株式会社

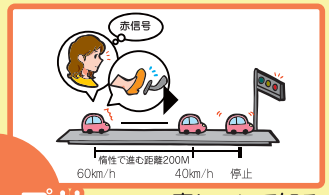
光・日光タクシーグループ

長崎市市民局環境部

私たちにできるエコドライブ！

ふんわりアクセル

早めのアクセルオフ



燃費アップ!!

整備点検

車について知る

出典:省エネルギーセンター

長崎県からのお知らせ

長崎県地球温暖化防止活動推進員を募集します！

県では、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源活動に取り組むとともに、地域住民の方への温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めてくださる方（地球温暖化防止活動推進員）を募集します。

○募集期間
平成26年2月24日（月）から3月20日（木）までです（20日必着）。

○募集人数
45名程度とし、次の各地区ごとに募集します。
（県内の推進員の定員は、継続していただく方と合わせ、約100名です。）
・長崎地区（長崎市）：約8名
・佐世保地区（佐世保市）：約6名
・西彼地区（西海市、長与町、時津町）：約5名
・県央地区（諫早市、大村市、東彼杵町、川棚町、波佐見町）：約6名
・県南地区（島原市、雲仙市、南島原市）：約5名
・県北地区（平戸市、松浦市、佐々町）：約7名
・五島地区（五島市）：約2名
・上五島地区（新上五島町、小値賀町）：約4名
・対馬地区（対馬市）：約2名

○応募資格
県内に居住している満20歳以上（平成26年4月1日現在）の方で、県や長崎県地球温暖化防止活動推進センター等が開催する研修会や催し物に積極的に参加できる方。

○任期
平成26年4月から平成28年3月末までです。

○活動経費
活動状況の報告をしていただいた方へ、年間の活動経費として、10,000円程度を支払います。

○応募方法
「地球温暖化防止活動推進員応募申込書」に必要事項を記入し、持参、郵送、FAX又はメールによりお申し込み下さい。
※応募申込書は、長崎県環境部未来環境推進課のホームページからダウンロードするか、長崎県未来環境推進課又は最寄りの県立保健所、市町（環境保全担当課）へ請求してください。
※詳しい応募要領については、未来環境推進課のホームページをご覧ください。

お問合せ先　長崎県環境部未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町2-13　TEL 095-895-2512　FAX 095-895-2566
E-mail　s09050@pref.nagasaki.lg.jp
ホームページ　http://www.pref.nagasaki.jp/object/shikaku-shiken-bosyu/boshu/133553.html